

水は城内では極めて重要な資源であった。真水がなければ、城内に立てこもった人々は長期の包囲に耐えることはできなかった。岐阜城のような大きなお城では、城内に多くの井戸があり、飲み水や消火のために十分な量を確保しなければならなかった。この井戸は 1999 年の研究発掘中に発見され、織田信長（1534－1582）が城を統治したとき（1567－1579）にまで遡る。井戸の深さは約 5 メートルで、底はぴったり合った石の裏地を支える正方形の松材が基礎となっている。